

福井県立音楽堂(1/2)

ふくい音楽文化の創造と発信拠点 ～ハーモニーホールふくい～

所在地	福井市今市町40-1-1		
設置年月日	平成9年9月20日		
施設の種類	音楽ホール	施設管理主体	(財)福井県文化振興事業団
設置の目的	本県における音楽文化の振興を図り、県民の芸術文化の向上に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延11,649㎡ 大ホール(1,456席)、小ホール(610席)、練習室(6室)、インフォメーションセンター、展示ギャラリー		
職員数	職員8人(県派遣4人) 非常勤嘱託5人 アルバイト1人 計14人		

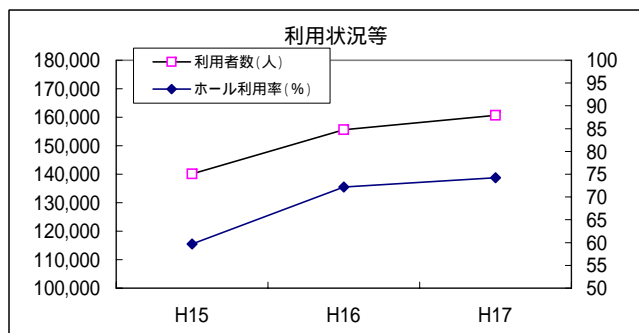
利用状況等

	H15	H16	H17
利用者数(人)	140,121	155,637	160,642
ホール利用率(%)	59.7	72.2	74.2

利用者負担(利用料金)等

大ホール(休日午後)	58,000円
小ホール(休日午後)	32,000円
練習室(平日夜間)	870円

(施設HPの施設概要参照)



利用状況の推移

平成16年度はパイプオルガン(平成15年度下期に設置)を活用した公演等の実施により、開館者が増加するとともに、ホール利用率も上昇しました。
平成17年度は近畿高等学校総合文化祭や国民文化祭での利用等の要因により、利用者・ホール利用率とも2年連続の増加となりました。

平成17年度の特徴について

事業実績	<p>県民の音楽活動の発表の場および練習の場として、県民にホール、練習室を開放しており、年間延べ約16万人の利用がありました。 特に、6室ある練習室は、従来から県内の音楽愛好者や団体等により頻りに利用されており、利用率はほぼ100%です。 また、平成15年度にパイプオルガンの設置が完了したこともあり、平成16年度は大ホールの利用率が大幅に上昇しましたが、平成17年度も引き続き高い利用率になっています。 施設管理主体である(財)福井県文化振興事業団により、世界のトップレベルのオーケストラ等のコンサートをはじめ、県内音楽愛好者や本県出身の著名アーティストが出演するもの等多彩な公演が年間を通じて実施されました。平成17年度は人気の高い「中村紘子ピアノリサイタル」や「岩城宏之指揮 オーケストラアンサンブル金沢」等3公演で、チケットが完売し、多数の来場者を集めました。 パイプオルガンを利用した「音の彩り 松居直美パイプオルガン名曲の調べ」や「時空を越えて 交流コンサート」などの公演を開催したほか、演奏家や指導者を目指す人を対象としたオルガニスト養成講座や、気軽にパイプオルガンを体験できる「オルガン体験ツアー」などパイプオルガンを積極的に活用した事業を展開しました。</p>
------	---

パイプオルガンの活用

(公演) 入場者 延べ4,741名 平均入場率 74.4%

5月3日 岩城宏之指揮 京都市交響楽団 サン=スレス「オルガン」

9月23日 音の彩り 松居直美パイプオルガン名曲の調べ

12月25日 クリスマスファミリーコンサート パイプオルガンと打楽器博物館

2月5日 時空を越えて 交流コンサート

3月19日 時代を超え魂の声を拾う!「福井ルネサンス」

(普及啓発事業) 入場者 延べ2,852名

・おしゃべりコンサート(4/10、7/10、11/6)

・ワンコインオルガンミニコンサート(6/26、9/11、3/25)

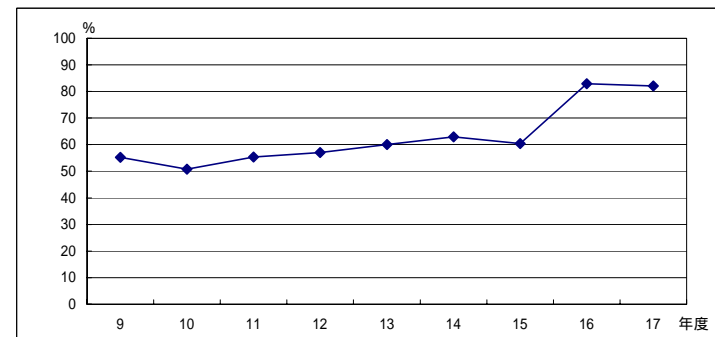
・オルガン体験ツアー(8/28)

(セミナー) 受講者7名

・オルガニスト養成講座(7/2~3、8/13~14、9/3~4、10/1~2)



大ホール利用率の推移



福井県立音楽堂(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	0	0.0%	-
	退職給与引当金繰入	0	0.0%	-
	計	0	0.0%	-
物にかかるコスト	物件費	263,770	47.3%	97.0%
	維持補修費	3,295	0.6%	39.3%
	減価償却費	227,140	40.8%	100.0%
	計	494,205	88.7%	97.4%
その他	公債費(利子)	63,146	11.3%	49.3%
	その他	0	0.0%	-
	計	63,146	11.3%	49.3%
合計		557,351	100.0%	87.5%

他に音楽堂事業補助金 108,027千円あり

(単位 千円)

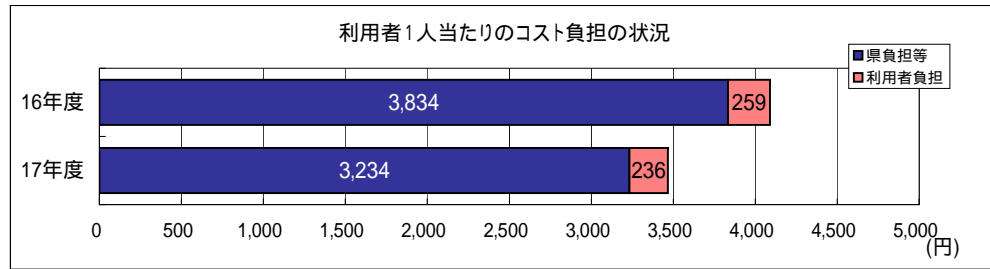
収入				
	利用料等収入	37,925	6.8%	93.9%
	その他収入	6,347	1.1%	62.6%
	一般財源	513,079	92.1%	87.5%

バランスシート(平成18年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	14,441,855	98.5%	固定負債	1,008,584	54.2%
投資等	389	64.8%	流動負債	854,286	97.6%
流動資産	0	-	正味資産	12,579,374	105.4%
計	14,442,244	98.5%	計	14,442,244	98.5%

(前年比)

利用料等収入計	37,925,000 円	93.9%
利用者1人あたり平均利用料	236 円	91.1%
利用者1人あたりコスト	3,470 円	84.8%



施設の特徴

北陸初の音楽専用ホールとして開館後、世界の超一流のオーケストラの公演が実施されるとともに、その優れた音響性能について、アーティストの評価も高いなど、国内有数のホールとして高い評価を受けています。

一流演奏家を招いた公演以外にも、県内音楽家や本県出身の著名アーティストが出演するものなど、県民が音楽を身近に感じることができる多彩な公演が実施されており、県民の音楽に触れる機会が増加しました。

全国から受講生を集め、楽器ごとに隔年で実施されているハーブ・マリンバのマスターコース(上級セミナー)は、本県にゆかりの深い両楽器を全国にPRできる絶好の機会となっています。また、平成15年度に設置したパイプオルガンを利用したオルガニスト養成講座や、小・中学生が楽器に興味を持つためのきっかけづくりとして、ハーブ・マリンバ・ヴァイオリン・チェロのふれあい教室も開催されています。

県民の日頃の音楽活動発表の場、練習の場として比較的低料金で利用でき、県内の音楽レベルの向上に寄与しています。

今後の課題

平成18年度からの指定管理者制度導入後は、指定管理者と緊密に連携・協力し、利用者サービスの向上を図るとともに、利用者ニーズに応えるよう公演内容の充実を図ります。

今後の事業方針

パイプオルガンの設置により演奏可能な音楽の幅が広がったことから、これを積極的に活用し、県内の音楽文化のさらなる振興を図ります。

取組み内容

音楽演奏を中心とした講演会やシンポジウム等での利用を広く呼びかけ、新たな利用者を開拓するとともに、ホール利用率の向上を図ります。

県民に魅力のある公演を継続して実施できるよう、また、芸術音楽になじみの薄い県民や子供たちにも興味を持ってもらえるよう公演企画の充実に努めます。

バランスシート、行政コスト計算書の特徴

財団法人福井県文化振興事業団への管理委託を行っているため、人件費や維持補修費等については、県の委託料としてすべて物件費に計上しています。

施設の設置が平成9年度と比較的新しく、減価償却費や公債費の割合が高くなっています。

近畿高等学校総合文化祭や国民文化祭での利用者が増加し、公債費等コストが減少したため、利用者1人当たりのコストは減少しています。